

靖雅堂 夏目美術店

創業95周年記念

特別リレー・インタビュー

次なる100年をめざして



撮影：安達康介

かけがえのない財産を未来へ

夏目進

（靖雅堂 夏目美術店 代表取締役社長）

靖雅堂 夏目美術店と日本の美術市場

美術の世界に転身したのは、33歳のときでした。同じ業界の若い方はあまり知らないかも知れませんが、その前にプロ野球選手として10年間プレーしていました。高校を卒業後、大毎オリオンズ現・千葉ロッテマリーンズ）に入団。その後、野村克也監督に誘われトレードで南海ホークスにいきました。それから大沢啓二監督（親分）とともに、日本ハムファイターズでコーチとして活動しました。大沢監督の教えは、「最後の最後まで決して諦めない」という厳しいものでした。勝利の喜びやチームメイトとの絆、そして何よりも目標に向かっ

て努力することの大切さを学ぶ貴重な時間でした。

写真は1970年頃、ハワイでサンフランシスコ・ジャイアンツとロッテのオープン戦にて（中央が進氏）

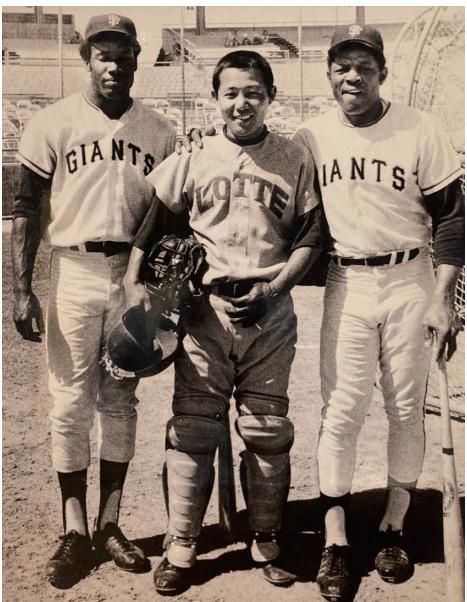
は作家まわりをしろ」と言い、奥村土牛先生や片岡球子先生、奥田元宋先生をはじめ、多くの作家のもとへ連れて行ってくれました。その中でも特に印象深かったのは平山郁夫先生です。先生とはワシントンや中国、韓国、パリ、そしてフランスのラスコー洞窟にもご一緒に、作品や歴史、文化の奥深さを肌で感じることができました。

美術館や画廊に行って色々な作品を見ることが大事です。そして自分で感じたことを言葉で説明できるように訓練すること、こうした表現力がなければ美術品の素晴らしさを人に伝えることができません。心象風景という言葉がありますが、すぐれた風景画には画家の心象が表現されていて、そこを見る人の心象が共鳴するんです。こうした経験は、単に美術の知識を得る以上に、人間としての感性や視野を大きく広げてくれたように思います。

こうした作家たちとの出会いを通じて私が学ん

だのは、文化や芸術には人の心を豊かにする力があるということです。日本には、何百年、何千年もの間、この国の風土の中で育ってきた独自の文化があります。それは決して失ってはいけない、永遠に受け継ぐべき宝物です。そして、芸術に国境はありません。言語や民族、歴史が異なっても、芸術には人と人、心と心を結ぶ力があります。美術品は単なる「もの」ではなく、人類にとってかけがえのない財産なのです。

おかげさまで当店は今年、95周年を迎えることができました。この長い歩みの中で、私たちは多くの作家やお客様に支えられ、数々の貴重な出会いを重ねてきました。これからも、美術の魅力を広く伝え、文化を次の世代へつなげることを使命とし、日々努力を続けていきたいと考えています。



1970年頃。ハワイで行われたサンフランシスコ・ジャイアンツとロッテのオープン戦にて（中央が進氏）

なつめ・すすむ

1943年群馬県生まれ。富岡高校卒業後、大毎オリオンズへ入団。およそ10年間、捕手として活躍。引退後、日本ハムファイターズでコーチを務める。81年夏目美術店入社。先代との二人三脚で夏目美術店を大きく発展させる。2006年代表取締役就任。麹町古物商防犯協力会会長、一般社団法人全国美術商連合会副会長、日本ハムファイターズOB会副会長などを歴任。

1943年	日本美術報国会創設（会長・横山大觀）
1945年	日本美術及び工芸統制協会設置
1946年	日本敗戦
1947年	盧溝橋事件勃発、日中戦争始まる
1948年	同開戦により戦時特別税として書画マッコビーで、当時一人の強打者は「M&M砲」と呼ばれていました。中央にいるのが私で、27歳くらいだったと思います。あの頃の思い出は今でも鮮やかに心に残っています。
1949年	国家総動員法発令も美術分野の国家管理の促進が進む
1950年	太平洋戦争開戦
1951年	戦争で中断していた「千束会」を上野公園内の貸席「花山亭」で再開
1952年	（有）夏目商店設立
1953年	五都連合日本画展覽会（東京他五都市の美術俱楽部による新作入札展、54年より五都展。以降、現存作家市場的指標）
1954年	（有）靖雅堂夏目美術店に改名
1955年	東京美術俱楽部再加入
1956年	日本洋画商協同組合発足
1958年	書画骨董の物品税全廃
1960年	東京美術商協同組合主催「オリーピック記念古美術展覽特別販売会」
1961年	（翌年より東美特別展）
1962年	日本美術品競売株式会社（JAA）設立
1963年	文化庁発足
1964年	夏目四郎が代表取締役に就任
1965年	日本美術品競売株式会社（JAA）設立
1966年	丸紅飯田が美術品輸入開始
1967年	（この頃より「絵画ブーム」と言われる）
1968年	美術市場の大暴落（絵画ブーム終焉）
1969年	東京美術俱楽部で東京美術商協同組合・クリスティーズ社共催による日本初の国際公開オークション（東京美術俱楽部、サザビーズも日本橋三越で公開オークションを開催）
1970年	（この頃より「絵画ブーム」と言われる）
1971年	東美入札会（東京美術商協同組合が誰でも参加できる公開形式の入札会を開催）

なつめ・すすむ

1943年群馬県生まれ。富岡高校卒業後、大毎オリオンズへ入団。およそ10年間、捕手として活躍。引退後、日本ハムファイターズでコーチを務める。81年夏目美術店入社。先代との二人三脚で夏目美術店を大きく発展させる。2006年代表取締役就任。麹町古物商防犯協力会会長、一般社団法人全国美術商連合会副会長、日本ハムファイターズOB会副会長などを歴任。

なつめ・すすむ

1943年群馬県生まれ。富岡高校卒業後、大毎オリオンズへ入団。およそ1

小さな努力を、ひとつひとつ——

夏目洋史 (靖雅堂 夏目美術店 副社長)



撮影：安達康介

なつめ・ひろふみ
1977年生まれ。2002年ギャラリーぐんじに入社。07年夏目美術店入社。2020年東京美術青年会理事長（～23年1月）。現在、夏目美術店取締役副社長。

靖雅堂 夏目美術店95周年記念 奥田小由女・千住博 二人展

会期 2025年11月11日(火)～21日(金) 日曜休廊
10時30分～17時30分(土曜11時～16時30分)
会場 靖雅堂 夏目美術店
東京都千代田区九段南4-8-28
電話03(3264)6606
※11／11(火)作家在廊予定。

美術店は百貨店への販路を本格的に広げていきました。それまでは交換会が主なビジネスでしたが、以後は一般のお客様へ直接作品を届けるようなり、活動の幅が大きく広がりました。私が店に戻つてからは、百貨店だけでなくアートフェアにも力を入れるようになりました。

いわゆる「巨匠」と呼ばれる作家やスター的存在が少なくなった今、次の時代を担う若手を育てていくことは、美術商の大切な使命だと感じています。近年は、平良志季、北澤龍、丁子紅子といつた作家をアートフェアや百貨店の企画展で紹介し、多くの反響をいただきました。若い世代のコ

美術店は百貨店への販路を本格的に広げていきました。それまでは交換会が主なビジネスでしたが、以後は一般のお客様へ直接作品を届けるようなり、活動の幅が大きく広がりました。私が店に戻つてからは、百貨店だけでなくアートフェアにも力を入れるようになりました。

レクターは、肩書きや受賞歴といった外的な評価ではなく、自分の感性に響く作品を選んでいる。その姿勢に触れるたびに、私たち画商も「こういう作品を届けたい」という確かな思いを持つことが、何より大切だと実感しています。

おかげさまで、夏目美術店は創業95周年を迎えることができました。100周年まであと5年ですが、「そこを目指す」というよりは、一つひとつ仕事を丁寧に向き合い、「気づけば百年」という形が理想です。同時代を生きる作家や関係者の皆さんとともに、これからも小さな努力を重ねていきたいと思います。

私がこの業界で修業を始めたのは24歳のとき。夏目から独立した「ギャラリーぐんじ」で、一から勉強させていただきました。家業を継ぐようになされたことはありません。むしろ「自分の好きな仕事に就けばいい」というのが親の考えでしたが、心のどこかで「いつかは継ぐのだろう」という気持ちがあったのだと思います。

一人での初仕事は、徳島で開催された「棟方志功展」でした。ギャラリーぐんじと西邑画廊の共同企画で、入社してまだ日も浅い頃。右も左も分からぬまま、ぐんじ側の担当として現場に

靖雅堂 夏目美術店
創業95周年記念
特別リレー・インタビュー

次なる100年をめざして



好評を博したアートフェア東京20での丁子紅子展（2024年3月）

1980年	銀座セントラル美術館で50周年記念展
1985年	店舗ビル落成
1986年	前年のプラザ合意で円高ドル安が進みバブル景気が始まる
1988年	政府がドル減らしの一環として国立美術館の約30億円の海外作品特別購入を発表
1989年	昭和天皇崩御、年号が昭和から平成に
1990年	三越がピカソ「輕業師と若い道化師」を48億円で落札、西武百貨店がモネ「睡蓮」を13億円で落札（以後海外オーナーで日本人の高額落札が続く）
1991年	斎藤了英がNYクリスティーズオークションでゴッホ「医師ガシエの肖像」を落札（美術市場のバブル景気ピークに。以後、急激に景気が冷え込む）
1992年	東京アートエキスポ（日本初の国際アートフェア）
1993年	新社店舗ビル落成
1994年	美術商所得申告第一位となる株式会社に組織変更
1995年	NICAF YOKOHAMA（横浜を舞台にした国際アートフェア、97年より東京に会場を移す）
1999年	東美アートフェア
2001年	「伝統からの創造（現美展を発展的継承）」
2005年	毎日オークション創業
2006年	アートフェア東京（NICAFを発展的継承）
2007年	夏目四郎死去
2011年	千束会創業80周年記念大会
2015年	千束会創業85周年記念大会
2016年	「創と造」（「21世紀展の発展的継承」）
2023年	Tokyo Gendai (日本初 海外資本の国際アートフェア)